学校番号	105

令和３年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	新図説家庭基礎　（実教出版）						
副教材等	ﾆｭｰﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ家庭科 2020						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・生活していく中で、困ったことや、問題に感じたことを分析し、解決方法を考えます。自分だけで考えるだけではなく、友人と話をしたり、討論をしたりして、解決方法や改善方法を見つけていきましょう。
・実験や実習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身につけます。

２　学習の到達目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。コロナウイル感染拡大下での生活について考える態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人の一生と家族･家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち､その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに､実践的な態度を身につけている。	人の一生と家族･家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見出し､その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	地域の高齢者福祉サービスについて、調査したり、整理したりすることができる。	人の一生と家族・家庭及び福祉､衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につける。
評価方法	プリントの記録 実習計画書 実習レポート 課題研究 研究発表 作品	プリントの記録 実習計画書 実習レポート 課題研究 研究発表 作品 定期考査	実習作品 実習レポート 実習状況の観察 定期考査	定期考査 実習計画書 実習レポート プリントの記録 課題研究 研究発表

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	Ⅱ第一章　食生活と自立	3食品の選択と取り扱い 1.　食品の選択と保存 2.　食品の衛生と安全 4献立作成 1.　何をどれだけ食べればよいのか 2.　献立作成 6これからの食生活 1.　持続可能な食生活のために 2.　自立した食生活のために	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:自分や家族の食生活について関心をもち、主体的に学習を進めようとしている b:　ライフステージに合わせた献立を考え、工夫している c:料理の盛り付けや配膳、食事のマナーの基本を理解し、日常生活で実践できている d:現代の食生活の問題や課題について理解している	プリント ワークシート 定期考査
	Ⅰ第三章　高齢期の生活	1超高齢社会を生きる 1. 高齢社会の現状 2高齢期の心身の特徴と暮らし 1.　高齢期の心身の特徴 2.　高齢者の暮らし 3高齢期の暮らしを支える仕組み 1.　高齢期の経済を支える制度 2.　高齢者介護と介護保険制度 3.　地域で支える高齢社会	○	○	○	○	a:高齢者の生活心身の変化などに関心を持ち、自分の将来の姿としてとらえ、意欲的に学習に取り組んでいる。 b:将来の高齢者福祉の在り方について、どのように解決したらよいかなど、自分の考えを言うことができる。 c:高齢者と適切に関わることができたり高齢者の自立生活を支える技術を身につけている。 d：高齢者の生活について理解し、家族・地域・社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身につけている。	プリント ワークシート 定期考査

2学期	Ⅰ第四章　共生社会と福祉	1共生社会の実現のために 1.　ともに生き、支え合う社会 2.　共生社会の理念 3.　地域福祉 4.　ボランティア活動とNPO	○	○	○	○	a:　共生社会の実現のために、社会の一員として何ができるかを主体的に考え、行動しようとしている b:　共生社会の実現のために、社会の一員として何ができるかを考え、工夫している c:身近な地域における地域福祉の取り組み事例や、ＮＰＯの活動などについて、情報を収集・整理したり、参加したりすることができる d:共生社会の重要性について理解している	プリント 作品 実習レポート 定期考査
	Ⅱ第三章　住生活と自立	1住まいを見つめる 1.　住まいについて考えよう 2.　住まいの空間と家族の生活 住まいの空間の構成 2安全で健康な住まい 1.　安全な住まい 2.　衛生的な住まい 3これからの住生活と住環境 1.　みんなでつくるまち・住まい 2.　住宅事情と住宅政策 3.　住まいの維持と管理 4.　地球環境にやさしい住まい 5.　多様な居住形態と多様な住まい	○	○	○	○	a:家族が安全で、快適、かつ健康な生活を行う場としての住居につい関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:　住居と家族の生活、安全で環境に配慮した住生活について課題を見いだし、その解決をめざして考え、適切に判断し表現している。 c：地球環境に配慮し、耐久性の高い住居について科学的に理解し、住居の計画や選択に必要な情報を収集・整理する技術を身につけている。 d：住居の条件を理解して、家族の生活に応じた適切な住居計画や選択ができる知識をもっている。	プリント ワークシート 住宅模型 定期考査

三学期	第四章　消費生活と経済	1経済的な自立を目指して 1.　暮らしに必要なお金 2.　見えないお金との付き合い方 2将来の経済生活を見通す 1.　計画的なお金の準備 2.　リスクに備える 3消費者の意思決定 1. 消費者市民になるために 4消費者問題の発生と消費者の権利 1.　消費者問題の発生 2.　契約とは 5消費者市民社会の実現に向けて 1. 家計の消費支出の影響力	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a：様々な消費者問題について認識し、消費者の権利や責任について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b：消費生活と生涯を見通した経済の計画・管理、生活設計について、考え、工夫している。 c：消費生活と生涯を見通した経済の計画・管理、生活設計を立案するための技術を身につけている。 d：現在及び将来の消費生活と経済の計画・管理、生活設計のために必要な知識を身につけている。	プリント ワークシート ロールプレイング 研究発表

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。